

さくらだより

第23号

2012年10月22日

社会福祉法人京都老人福祉協会 京都市伏見区深草大亀谷東古御香町59番地・60番地 TEL.075-641-6622 FAX.075-641-6633
<http://kyoro.or.jp/>



特集

障がい者雇用

発信委員会の歩み……………2



京都老人ホームから
うづら保育園へ

遊びに行きましたよ……………4



きょちゃんくら

利用者さんと一緒に
パン作り……………6



醍醐エリア

広報誌つくり……………6

京老訪問入浴車が行く……………7



深草エリア

娯楽のあるひととき……………7

伏見エリア

板橋の町家ほっこり
「サロン」……………8



リレー「ラム

「地域と共」暮らし
共に歩む……………8

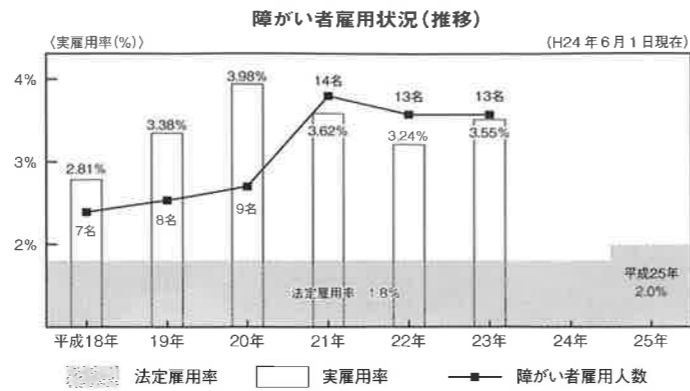


ハートで
ぬくもりと安心を
お届けします
京都老人福祉協会

CONTENTS

障がい者の方の社会参加を進める動きが活発になっていきます。

障害者雇用促進法雇用率1.8%（H25年度2.0%）を定めていますが、昨年の法人の障害者実雇用率は3.55%でそれを上回っています。また、ほぼ全事業所に配属されており、障がいのあるなしに関係なく力を発揮でき継続して働いてもらうことを実践しています。



Q. はなみずきカフェの活動は今もやっておられるのですか？

A. やっています。年1回ですが知的障がいのスタッフがお菓子を作ったり接客をしています。お客さんは障がい者雇用発信委員会のスタッフや他職員と利用者さんです。

Q. 今後はどのような方向へ進んで行く予定ですか？

A. 今後は冊子作りを行い法人以外にも紹介出来るように活動して行く予定です。さらに気持ちを新たに代入替えて、頑張っていきたいです。

Q. 障がい者の働ける環境や仕事は、法人内で増えますか？

A. まだ雇用ができてない事業所がありますし、その事業所はきっと雇用していきたい気持ちを持ってると思っています。この委員会から発信することで、相談の場を持つチャンスができて、雇用につながるかもしれません。

障がい者雇用発信委員会でのビデオ上映会のアンケート結果

(1) 今回のビデオを見てどのような事を感じたか？

- ・特別な存在として仕事をしているのではなく、1スタッフとして仕事をされているのだと感じた。
- ・障がい者という隔たりがなく、自然と一緒に働く仲間という感じが伝わりました。

(2) 今後障がい者雇用に望むことは？

- ・今後も引き続き雇用に関わってほしい。
- ・皆さんに働く機会を少しでも増やせるように働きかけてほしい。
- ・障がい者の方も含めて、生き生きと働ける職場を作っていきたい。



障がい者雇用発信委員会に参加して

醍醐の家ほっこり 事務員 和田憲有

自分は、今年度からこの委員会に参加して、主に紹介ビデオの編集等の仕事をさせていただきました。私自身も体に障がいがあり胸から下の感覚が無く車イスに乗って生活をしています。歩けなかったり筋肉が利かなかったりと、様々な『出来ない事』もあります。

しかし、職場の皆さんが自分の障がいを理解し協力してくれることで、自分の『出来る事』を生かしながら働く事が出来ています。

今回のビデオ紹介や委員会の様々な活動を通じて、少しでも多くの方に障がい者雇用についての問題や現状を理解していただき、たくさんの方に協力をしてもらいながら「障がいがあっても働ける環境づくり」に協力していければと思っています。



障がい者雇用発信委員会施設見学

平成20年4月に法人内にできたプロジェクトで「法人内事業所すべてに障がい者雇用を」を目的とし、法人内各事業所から委員を出し活動を始めました。ネットワークを中心に活動してきた4年の経過と成果について紹介します。

花一輪が 心と心を通わせて 目を見張る花畑になるよう

子育て中の女性や障がいのある人が継続的に働き続けられる組織・勤務形態をめざし、開発に挑戦している2つのプロジェクトがあります。今回の特集では「障がい者雇用推進発信委員会」を紹介いたします。

障がい者雇用発信委員会の歩み

経過…
各事業所の雇用状況確認・実習生受け入れ・行政制作のビデオ学習会・京都府内の施設見学と京都府障害者職業センターの研修・セミナー参加・事例研究と受け入れ相談等4年の間、職員の入れ替わりをしながらこの会は紡ぎ続けられてきました。

主な取組紹介…
講師を招いての研修会は、三回行いました。京都教育大学付属支援学校の先生とオリープホットハウスの専門職の方、そして、だいが学園の相談員を招きお話を伺いました。



ハイカーほっこりサークルと共に大文字山登山



京都教育大学の学生さんと一緒に
楽焼を楽しみました



ランチ会議

次に、「はなみずきカフェ」と名前をつけましたが、障がいのある職員と共に事業所を回りお茶会をしました。もちろん、きつちゃんさくらの手作りお菓子とティーのおもてなしに、職員やお客様は終始笑顔でした。

その他の活動…
障がいのある職員と共に京都教育大学のご協力で陶芸をさせていただき、楽焼でコップや皿を作らせてもらいました。手作り食器は、はなみずきカフェや入居者のお茶会に使い、その趣が好評です。

また、法人内のハイカーほっこりサークルと共に大文字山や滋賀県湖南アルプス等に登りました。

今年度の取り組み…
23年度から取り組んでいる障がいのある職員を雇用する事業所紹介のビデオ撮影と上映会について紹介します。障がいのある職員とそのチームを撮影しインタビューや業務の様子取材して作成しました。

最後に、はなみずきの花言葉は「私の思いを受けて下さい。」です。これからも働く意欲がある障がいのある職員と共に、法人の理念を大切に、互いに手を差し伸べあいながら、果てない大きな夢を実現していきたいと思えます。

京都老人ホームから うづら保育園へ

遊びに行きました♪



小さい子どもが大好きな京都老人ホームの岸本トミヨさん。でも、年に1、2回しか小さい子ども達とふれあう機会がありませんでした。なかなか小さい子ども達に会えないので、いつも可愛い人形を抱っこしてあやしておられました。せっかく同じ事業所内に「うづら保育園」があるので、事情を説明して、うづら保育園に遊びに行っても良いですか?…と尋ねてみました。なんと、快くOKして頂けたので、7月17日に京都老人ホームからうづら保育園に出発!



1歳児がプールに入っているところに来られ、子ども達は「あーよー(おはよう)」と元気に挨拶する子や、人見知りで固まる子もありました。1人がおばあちゃんと握手すると「ぼくも」「わたしも」というように、次々に握手を求める子ども達。おばあちゃんも喜んでくださっていました。



いつもよりおしゃれをして、保育園に行くことをとても楽しみにされており、行き車から「ありがとう」といつもより表情豊かで素敵な笑顔が見られていました。まずは、プールに入っている園児との交流です。少し緊張されていたようですが、優しい表情で手招きをし、近寄ってきてくれた園児の手を握り、頭を撫でておられました。普段職員に対してのボディタッチより、明らかにソフトに接しておられました。



5歳児では歌のプレゼント。大きな声で元気いっぱい歌いました。

子ども達のパワーに圧倒されたかもしれませんが、子ども達とお年寄りが関わる良い機会になったのではないのでしょうか。

こういった地域の方とのふれあいを大切に、子ども達の温かい心・優しい心が育ってくれればと思います。

(うづら保育園)



次は、教室で30人程の園児と、順番に握手をして交流。

大勢の園児達に囲まれて、緊張されていたようでしたが、園児が歌を聴かせてくれて、とても喜んでおられました。京都老人ホームに帰ってきてからも、ご機嫌な様子でにこにこされていて、保育園訪問を楽しまれたのだな…と感じ取れました。

今後は、他の利用者の方とも一緒に、月に1回のペースでうづら保育園にお邪魔させて頂く予定です。

これからも利用者の方の素敵な笑顔が見られるように取り組んでいこうと思います。(京都老人ホーム)



あ〜!
楽しかったあ!

また行けるといいなあ…。
ありがとうございます!

岸本トミヨ



京老訪問入浴車が行く!

京都老人ホーム訪問入浴サービス（通称：入サ）の歴史は以外と古い。「古い」と言うと聞こえが悪いので、「老舗」と言うべきでしょうか。昭和61年8月サービス開始ですので、介護保険制度がスタートする14年も前から存在していたかと思うとビックリです。そんな京老入サですが、何と！今年度、訪問入浴車がリニューアルしました。

見ての通り小さな軽自動車ですが、中は想像以上に広いですよ～。



車内には、組立式の浴槽が収納され力持ちの職員が利用者さんの家まで運びます

スタッフ3名が楽々乗車できますし、分割式の浴槽も今までの物と変わらないサイズです。しかも、お湯が冷めにくい遠赤浴槽!! ご自宅での入浴のひとつ。清潔の保持や健康チェックのみならず、お湯につかる事がもたらすリラックス効果もあります。お一人お一人の生活の質を考える時、欠かす事の出来ない時間ではないでしょうか。小さな煙突を付けた京老訪問入浴車は、今日も明日も伏見を走る。お風呂に入れなくて困っておられる方がいる限り。

■ 編集後記 ■

さくらだよりを作るにあたって、表紙や特集、各エリアの情報など最初は何もないところからのスタートですが、一人ひとりの意見やアイデアが形となって現われていく様は達成感や喜びを感じます。今後も、「何を伝えていきたいのか」、「読み手にとって興味のある内容とは何なのか」など意見を出し合い、様々な情報を発信していければと考えています。

広報委員 大西啓之



深草エリア

娯楽のある わんわん

敬老の日がある9月と年末の12月にボランティア団体の京都地域女性会や年金者組合の皆さんが来られます。普段は藤森神社のあじさい祭りや時代祭、地域の福祉施設などで踊りをされたりして活動されています。その一環として深草センターほっこりにも来て下さいます。実際には、大正琴や腹話術、踊り、筋トレ踊りなどを披露して下さいます。利用者さまも普段の雰囲気とは違うため、皆さんとても喜んでおられます。中には毎年楽しみにされて、「次、いつあるの?」と尋ねられる利用者さまもおられます。ボランティア団体の皆さんも地域との繋がりを大切に考えて下さっています。そのため毎年の恒例行事となるよう続いていくことを願っています。



利用者さんと一緒にパン作り



パンの型作成中! さて何パン?

今年の4月からさつちん「さくら」では、介護の利用者さまとパンサークルを始めました。活動内容は月に1回、14時半～16時の1時間半で、1次発酵まで終わった生地を麺棒でのばし、一人ひとりいろいろな形のパンを作っている、2次発酵を待つから、オーブンで焼きます。焼いている待ち時間に、前回行ったパン作りの写真を貼り、「パンサークル新聞」を完成させます。「4月はさくらあんぱんやつたなあ」「今日の方が上手く作れた」

「たね」と新聞を作りながら話してみます。掲載の写真からもパンや新聞を生き生きと楽しそうに作っている様子が伝わってきます。そしてパンが焼けたら、焼き立てパンと一緒にティータイムを楽しみます。皆さん自分で作ったパンはひと味違って格別美味しくわ!と満面の笑顔で食べられます。



かわいいトマトパンの出来上り

広報誌づくり

小栗栖の家ほっこりでは、小規模多機能の広報誌を作る活動をしています。と言っても始めたばかりなのでまだ3回の発行ですが、月の予定やレクリエーションで出掛けた写真などを載せています。また、小栗栖に昔から住んでおられる利用者さんにお話を聞いて「小栗栖」のいわれなど教えて頂き「よもやまばなし」のコーナーをもうけたり、表紙のタイトル書きも利用者さんが筆で書いてくださった物を使用し皆で一緒に作り上げています。



この広報誌でご家族の方にも、もっとほっこりを知って頂いて、気軽に遊びに来て頂けるようになれば良いなと思っています。まだまだ手さぐりですが皆さんに楽しく読んで頂けるような、また、ほのぼのとした気持ちになるような広報誌作りに努めたいと思います。

「小栗栖よもやまばなし」…六地藏の街道の分かれ道に「おごろす」と道標の石があるのを子供のころに見た覚えがあります。また、私より年配の方々が「おごろす」と発音していたのを記録しています。そもそも小栗栖の栗栖とは大和言葉から由来しており「山麓の平坦地、丘のような場所」という意味があり、そのことから小栗栖は「小高い丘」という意味になるそうです。… (一部省略)

醍醐エリア

板橋の町家ほっこり 「サロン」



板橋地域の高齢者の状況には、高齢化率は低いですが後期高齢者の割合は高いという特徴があります。

そんな中、板橋の町家ほっこりの運営推進会議で下鳥羽包括支援センターより、板橋地域の高齢者がゆっくりお話する場所がないとの事で場所の提供依頼がありました。そこで昨年の9月に板橋学区ケア会議に参加させて頂き『病院の帰りに行きやすい』『木曜日が出やすい』などの声をもとに、毎月第2木曜日の10時～16時に、いこいの場所を提供させて頂くことになりました。平成23年11月に第1回目を開催するにあたり、チラシを400枚程度配布して頂きました。



初回は福祉関係者も含め21名の参加があり、沢山の花を使ってのクリスマスリース作りを行いました。初めは隣に座る人を知らない方もおられ、話しくそうなる雰囲気でしたが、和喫茶での昼食時には話もはずみ、和気あいあいとした雰囲気になりました。



第1回作品
クリスマス
リース



第8回作品
うちわ

その後も毎月開催させて頂き、9回目を迎えるまでになりました。参加して下さる人数も安定し『沢山の方と知り合うことができた』『来るのが楽しみ』と言った声も聞かせて頂けるようになりました。

板橋の町家ほっこりは大正9年に建てられた町家を改修し、奥深い京町家の歴史に触れながらほっこりした場所で時間の許す限り寛いで頂きたいと思っております。



「地域と共に暮らし共に歩む」

在宅事業部部长 川戸 敬子

板橋の町家ほっこりさんは、立派すぎて入りづらい、敷居が高い。これが地域の皆さんからの第一印象の声でした。どうしたら板橋地域の皆さんに、ほっこりを知って頂き、利用して頂けるのが悩みでした。

今日、6年がすぎた。やっと地域の方から「ほっこりさん」と名前を呼んで頂けるようになりました。喫茶にもランチの予約が沢山入るようになり人気を集めています。

老人施設でありながら、他にない喫茶もやっているが、外から見ると何をしているのかが分かりづらいとの声。そこで、運営推進会議に参加して頂いている、老人福祉委員・民生委員・下鳥羽包括・ケアマネさん達にお集まり頂き、介護保険の勉強会や、地域の情報交換を行ったり、本部からの配食を食べて頂いたりと、困っておられる方に、少しでも支援ができればと思いき始め

これからもほっこりが地域から信頼され、困った時に必要とされる事業所となるように、職員一丸となって頑張りますので宜しくお願い致します。

